

明日香をさぐる

明日香村の古民家が 登録文化財に

大字飛鳥の古民家がホテル「ブランシエラ ヴィラ 明日香」に生まれかわりました。この建物は、明日香村で初めて国の登録有形文化財に登録されました。

明日香村には村内全域にわたって歴史的文化遺産が分布しています。こうした文化遺産を取り巻く景観は、万葉集にも詠われた飛鳥時代の景色が長きにわたって連続と引き継がれ、いまの農村景観となっています。その代表的なものとして、「奥飛鳥の文化的景観」が国の重要文化的景観に選ばれており、飛鳥川沿いの山の地形や石積み、飛鳥川沿いの山の地形や石積みの棚田、大和棟と呼ばれる伝統的な形式の建物とその集落で構成された景観は非常に高い価値を有しています。

他にも、近世以降に門前町としてにぎわった岡寺周辺にある町屋

様式の建造物で構成された歴史的町並みも明日香の歴史的景観において重要な位置を占めています。また飛鳥寺の北にある県道もかつては飛鳥坐神社の参道として栄え、農業のかたわら参拝客向けの商売も行われていました。参道沿いの民家には、伝統的な大和棟のほか、一階の木製格子や二階の漆喰塗りや虫籠窓など大和盆地にみられる町屋の特徴をよく残しています。

近年、こうした古民家を再生し、活用していきこうという動きが活発となっています。明日香村では長谷工コーポレーションとの官民連携、携包括協定に基づいて古民家再活

用事業を進めています。その第一弾として大字飛鳥の古民家を改修したホテル「ブランシエラ ヴィラ 明日香」が3月18日グランドオープンしました。

今回再生された古民家は、北には飛鳥坐神社の参道に面した主屋、南には畑に面した離れがある建物配置です。主屋は農家形式の構造ですが、町屋の特徴も有しています。離れには物入、厩舎、納屋があり、後に別座敷が造り付けられました。今回のホテルへの転用にあたり、主屋の外観と間取りはそのままですが、離れについては、外観は一部昔のまま、納屋は床を設けて洋室にするなど客室利用のため用途を変更しているところもあります。

この古民家は、口伝や古記録、隣接する家の鬼瓦にヘラ書きされた銘文から明治3年に建てられたことがわかりました。屋根下地に使われていた和釘や建築様式からみてもこの建築年代は確かなものです。さらに、飛鳥坐神社の参道である通りの街並み景観を特徴づけるものでもあります。

令和4年2月17日、ホテルに生まれかわったこの古民家が国の登録有形文化財に登録されました。登録文化財とは、国や自治体が「指定」した文化財ではなく、所有者の要望により推薦・選定され、台帳に「登録」された文化財のことです。登録文化財は指定文化財に比べて規制が緩く、文化財を地域の財産として守りながら使い続けていく新たな文化財保護の仕組みとなっています。

(明日香村教育委員会文化財課)



ホテルの外観（県道から）